

Japanese Society **Hip**



日本股関節学会ニュースレター

No.10 < 2024.9 発行 >

銀座に生きる「伊藤 由美」 **Interview**

両側同時人工股関節置換手術で
取り戻した健康

第 50 回学術集会を開催して

第 51 回学術集会のご案内

第 3 回日本股関節学会 骨切りセミナー

第 10 回日本股関節学会 教育研修セミナーご案内

第 34 回大正 Award 受賞者

股関節に関する基礎と臨床の研究を通じて
股関節学の進歩普及に貢献することを目的とする

Japanese Society

日本股関節学会ニュースレター

No.10 < 2024.9 発行 >



JHS

3	目次
4	理事長ご挨拶
5	第50回日本股関節学会学術集会を開催させて頂いて
6	第51回日本股関節学会学術集会開催にあたり
9	第34回大正 Award 最優秀賞・優秀賞
10	特別インタビュー
12	『股関節学』(第2版) 出版のお知らせ
14	日本股関節学会海外研修制度帰朝報告
17	第3回日本股関節学会 骨切りセミナー
18	第5回日本股関節学会 教育研修セミナー開催して(アドバンスコース)
19	第2回日本股関節学会FAI関節唇カダバーセミナー
20	第10回日本股関節学会教育研修セミナーご案内(ベーシックコース)
21	委員会活動報告(社会保険委員会)
23	『変形性股関節症診療ガイドライン』(第3版)について
24	日本股関節学会役員一覧・新評議員・学術評議員よりご挨拶
26	入会案内
27	編集後記



理事長ご挨拶

日本股関節学会 理事長 菅野 伸彦

川西市立総合医療センター 人工関節センター長

まず初めに、本学会が多くの会員の皆様に支えられ、股関節学の発展と、股関節を患う方々に適切な診療が提供できていることに、心から感謝いたします。第10号ニュースレターの発刊にあたり一言ご挨拶申し上げます。

今年から、当学会のロゴマークを股関節の形と英語名の The Japanese Hip Society の JH から策定しております。よろしくお願ひします。

さて、本学会の活動として、昨年10月27日、28日の2日間、第50回日本股関節学会学術集会が中島康晴会長のもと、福岡市のヒルトン福岡シーホークホテルで盛大に開催されました。「股関節道 Spirit of hip Surgeons」をテーマに、これまでの50年の歩みを振り返るとともに、未来を見据えた多彩なプログラムが展開されました。有料参加者数1931名、招待者も含む総参加者数2012名と大変盛況となり、中島会長をはじめ関係者の皆様のご尽力に心より感謝申し上げます。

学術集会に先立ち開催された研修セミナー（ベーシックコース）も現地とオンラインの2つの形式で行われ、151名（現地：38名、オンデマンド：113名）参加をいただき、オンデマンドのニーズが高く、今年も同様の形式で10月24日（木曜日）に岡山コンベンションセンターで開催予定です。第51回日本股関節学会学術集会ページより参加登録をお願いします。

更に、知識だけでなく実技を向上させるための第5回研修セミナーアドバンスコース（股関節鏡とエコー）、第3回日本股関節学会骨切りセミナー（カダバー）、第2回FAI関節唇セミナー（カダバー）の様子が本レターにも報告されていますので、ご一読いただければと思います。今年度もベーシックコースとともに3つの実習コースを計画しておりますので、新しく更新される当学会のホームページをご確認ください。

変形性股関節症診療ガイドラインも日本整形外科学会／日本股関節学会の監修のもと8年ぶりに改訂され（第3版）、今年5月に発刊されました。診療ガイドライン策定委員長中島康晴先生および委員の先生方のご尽力に御礼申し上げます。会員の皆様に是非ご活用いただければ幸いです。

本学会も外保連加盟団体として、2年に1回の診療報酬改定に向けた要望を行ってまいりました。詳細は高平尚伸先生の活動報告に記載されています。

学問体系のもととなる教科書「股関節学」を10年ぶりに改訂した第2版の編集も完了し、今年の岡山の学会で発刊できることとなりました。書店にも並ぶはずですので、手に取ってみていただき、ご購入いただければ幸いです。

今回も海外研修制度で3名の先生方の研修内容が報告されております。石田常仁先生はHHSでロボット手術、河野俊介先生はベルンで股関節温存術などの多くの手術を見学され、金永優先生はメイヨ、エール、HSS、NYUで触発された経験の喜びと感謝の気持ちが綴れております。また、昨年の大正 Award の最優秀賞を受賞した中村祐敬先生、優秀賞を受賞した杉山義晴先生の受賞コメントも掲載されております。本年度も両制度へ多くの先生方の応募をお待ちしております。

今秋、10月25日、26日には第51回の学術集会が三谷茂会長により岡山市で開催されます。「Hip Disorders Reborn, again from cradle to centenarian. もう一度ゆりかごから墓場まで」というテーマで、沢山の興味深いプログラムが企画されています。多くの先生方と学術集会でお会いでき、学問・スポーツ・食欲の秋を皆様で楽しめることを期待しております。今後も引き続き股関節学会へのご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

第50回日本股関節学会学術集会を開催させて頂いて

日本股関節学会
ニュースレター



会長 中島 康晴

九州大学大学院医学研究院 整形外科教室 教授

第50回日本股関節学会学術集会を2023年10月27日(金曜日)・28日(土曜日)の2日間、福岡市のヒルトン福岡シーホークホテルで開催させて頂きました。有料参加者数は

1931名、招待者も含む総参加者数は2012名と盛会に終えることができました。ご参加頂いた皆さまに心より感謝申し上げます。

第50回本学会のテーマを「股関節道 Spirit of hip Surgeons」と致しました。次世代の若い先生方には「股関節」を軸として、OA、ONFH、外傷、小児整形外科、スポーツ整形などの疾患に対する幅広い知識、そして治療についてはTHAだけではなく薬物を含めた保存治療、骨切り術、関節鏡、THAなどの技術を身につけ、将来の股関節学を担ってほしいという気持ちを込めたものです。

第50回の記念大会ということで、様々な企画を用意しました。まず学会初日に「50年記念式典」を開催しました。久保俊一初代理事長を座長に、会長の私から半世紀にわたる学会のあゆみを紹介し、杉山肇前理事長に学会組織の変遷について、菅野伸彦現理事長に日本股関節学会の今後の課題や展望を述べて頂きました。また来賓として European Hip Society・president, Klaus Siebenrock 先生、Hip Society・president, William Jiranek 先生、Korean Hip Society・president, Kee Haeng



50年記念式典を終えて。左よりKee Haeng Lee先生、Klaus Siebenrock先生、William Jiranek先生、William Maloney先生、久保俊一先生、菅野伸彦先生、中島康晴、杉山肇先生、Marc Safran先生

Lee先生から心温まるご祝辞を賜りました。2日目には「50年記念シンポジウム」と題して「日本で開発されたTHA：基礎から臨床まで」「日本で生まれた骨切り術：誕生から未来へ」を開催しました。わが国が世界に誇る業績を会員の皆様と共有できたと思っています。その他にも「患者参加」、「男女共同参画」、「自然経過」などをキーワードにしたシンポジウム・パネルディスカッション、879題の一般演題を通して、歴史を振り返り、そして未来につながるディスカッションができたのではないかと考えています。

最後になりますが、本学会を綿密に準備頂いた本村悟朗先生をはじめとする九州大学整形外科のスタッフ並びに献身的に運営頂いたコングレの皆様にご感謝申し上げます。第51回は川崎医科大学の三谷茂会長のもと岡山市で開催されます。日本股関節学会が益々発展することを心より祈念申し上げます。



シンポジウム8
「患者さんと考えるTHAの至適タイミング」

第51回日本股関節学会学術集会開催にあたり

2024年10月25日(金)・26日(土)に開催する第51回日本股関節学会学術集会について



会長 三谷 茂

川崎医科大学脊椎・関節整形外科 教授

このたび、第51回日本股関節学会学術集会を岡山市で開催させて頂きますことを、大変光栄に存じております。令和6年10月25日(金)26日(土)の2日間の日程で、会場は岡山駅に隣接した岡山コンベンションセンターを中心とした施設となります。中国地方で本学術集会が開催されますのは、平成25年に広島大学の安永裕司先生が第40回を開催したのに続いて2回目となります。

日本では少子高齢化が進んでおり、厚労省の発表では令和6年度の100歳以上人口は9万人を超えているとのことです。平均寿命の延伸に伴って、健康寿命も同様に伸ばしていく必要があります。変形性股関節症や大腿骨近位部骨折など、股関節外科医の役割は大きくなっています。一方、令和6年度の出生数は70万人に届かないとのことで、子どもを大切にそして健やかに育てていくことが求められます。先人の努力により以前よりは減ってきたものの発育性股関節形成不全は現在でも重要なテーマとなっています。そこで本学術集会のテーマは「Hip Disorders Reborn, again from cradle to centenarian」といたしました。現在に合わせて股関節学の整理を行うことが目的です。特に、発育性股関節形

成不全の治療とその後の二次性股関節症発症の予防についてアップデートできたらと考えています。その他の股関節疾患もあわせて、小児期から高齢者に至るまで治療をシームレスに行えるように、副題を「もう一度ゆりかごから墓場まで」といたしました。

岡山市には日本三名園のひとつ後楽園があり、その周辺にはたくさんの博物館や美術館も集まっています。川崎医科大学が位置する倉敷市には古い町並みで名高い美観地区があります。また、学術集会のポスターに使用しているジーンズストリートは国産ジーンズ発祥の地の倉敷市児島地区にあります。いずれもJRで20分程度の距離にあります。じっくりと討論した後に、岡山県の自然や文化にもふれて頂ければと思います。

紅葉の季節には少し早いですが、「晴れの国おかやま」の名に違わぬことを期待して頂き、全国から多数の先生方のご参加を心からお待ち申し上げます。



第51回日本股関節学会学術集会

テーマ	Hip Disorders Reborn, again from cradle to centenarian
会長	三谷 茂 (川崎医科大学脊椎・関節整形外科 教授)
会期	2024 年 10 月 25 日 (金)・26 日 (土)
会場	岡山コンベンションセンター・岡山県医師会館・ひかりの広場・岡山シティミュージアム・岡山国際交流センター (すべて岡山駅西口周辺の施設)
事務局	川崎医科大学脊椎・関節整形外科 内 〒701-0912 岡山県倉敷市松島 577 TEL: 086-462-1111 (内線 25509)
運営事務局	株式会社キョードープラス 〒700-0976 岡山市北区辰巳 20-110 TEL: 086-250-7681 FAX: 086-250-7682

おもなプログラム

1. 特別講演
尾崎敏文 先生 (岡山大学)
A. 小児エコー
Univ. Prof. Prof.h.c. Dr. med. Univ Reinhard Graf
B. KHS combined session
 1. ICKHS2024 president lecture
President: Prof. Myung-Rae Cho (Daegu Catholic University)
Vice President: Prof. Joo-Hyun Song (The Catholic University)
Secretary-General : Prof. Young Wook Lim (The Catholic University)
 2. KHS exchange fellowship
2. 海外招待講演
C. セメント THA
European Hip Society President: Prof. Eleftherios Tsiridis
(Chairman of Orthopaedic Surgery, PGH University Hospital, AUTH, Thessaloniki)
DDH 検診
DDH の治療 (乳児から思春期)
股関節感染
DDH: 成人期の骨切り術 (CPO/SPO)
DDH: 成人期の骨切り (棚形成 /Chiari)
ION: 骨切り術
THA 周囲骨折
股関節鏡治療
小児股関節エコーの有用性
わが国における股関節鏡手術の発展のために
股関節温存手術の利点・欠点
THA セメントテクニック
3. 教育研修講演
DDH 検診の重要性
小児股関節疾患のボタンタッチ
大腿骨転子下骨折の治療戦略
ロボット THA の現状と今後
寛骨臼骨折の治療戦略のアップデート
4. シンポジウム





第34回大正 Award 最優秀賞・優秀賞

第50回日本股関節学会学術集会において表彰式が執り行われました。

日本股関節学会
ニュースレター

最優秀賞

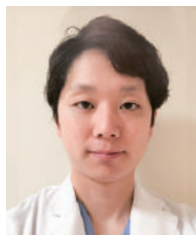
優秀賞



AI(人工知能)を用いて計測した
30000関節のCE角

中村 祐敬

市立甲府病院 整形外科
部長



PNI低値は
大腿骨転子部骨折患者において
周術期合併症のリスク因子である

杉山 義晴

静岡市立静岡病院
医長

1 受賞した研究活動について教えてください。

AI(人工知能)を用いて30000関節のCE角を計測しました。これまでCE角の計測は多いものでも1000関節程度でしたので年代別のCE角の平均など、これまで以上に正確な基準値を示すことができたと考えます。

2 受賞後の感想をお聞かせください。

このようなとても栄誉ある賞を私のような在野の医師が受賞できるとは思っておらず、受賞の報を頂いたときは驚きと感激で震えてしまいました。研究のヒントを与えてくださった杉山肇先生に心から感謝しております。また、この研究をご評価頂いた先生方に御礼申し上げたいと思います。

3 周囲の喜びの声、反応などについて教えてください。

大学時代にお世話になった教授や仲間の先生方が祝福してくれてとてもうれしかったです。また娘と息子が「家でコンピューターいじってるのは遊んでるんじゃないかなだね」といってくれて報われました(笑)。

4 受賞をきっかけにご自身に何か変化がありましたか？

これまで続けてきた研究を評価して頂き、自分の持ち味を生かした研究が間違っていなかったと安心しました。頂いた賞金で新しいPC環境を整えることもできましたのでより一層マニアックな研究に励む所存です。

5 今後の展望についてお聞かせください。

研究は趣味ですし、まだまだ知りたいことや解明したいことがたくさんあります。当面はAIとビッグデータを使った課題に取り組んでいく予定です。これからもコツコツと研究活動を続けて股関節分野の謎を少しでも解明できればと思っています。

1 受賞した研究活動について教えてください。

大腿骨転子部骨折患者は高齢者であることが多く、周術期合併症に常に悩まされてきました。そこで、アルブミンと総リンパ球数から算出できる予後栄養指数：PNI(prognostic nutritional index)が周術期合併症のリスク因子として有用であるか調査しました。その結果、PNIは肺炎、せん妄の独立した危険因子であり、そのCut off値は40未満であることが明らかとなりました。

2 受賞後の感想をお聞かせください。

まさか自分のような一般市中病院の医師がこのような大変栄誉ある賞を頂けるとは思ってはおらず、嬉しさ以上に驚きが大きかったです。受賞式での夢のような光景は一生忘れられないと思います。

3 周囲の喜びの声、反応などについて教えてください。

勤務先の病院や浜松医大股関節グループの先生方からお祝いの言葉を頂き、家族もお祝いしてくれました。とりわけ、かつて同じ賞を受賞され、長らく指導頂いている十全記念病院の小山博史先生からのお祝いの言葉は格別に嬉しかったです。

4 受賞をきっかけにご自身に何か変化がありましたか？

これまで受賞されているご高名な先生方のお名前を拝見して、とても身が引き締まる思いをしております。自分にできることを一歩ずつ、頂いた賞に恥じぬよう今後より一層日常診療に、研究に邁進して行きたいと思います。

5 今後の展望についてお聞かせください。

今後はPNIを用いた栄養評価を実臨床に取り入れ、周術期の栄養改善に取り組み、大腿骨転子部骨折患者の周術期合併症を減らせるよう、引き続き研究に邁進したいと考えております。

手術で健康を取り戻せたお礼に 銀座のお店を続けていきたいです

変形性股関節症を手術で克服した銀座『クラブ由美』オーナーで、エッセイスト、新聞・テレビなどでも活躍中の伊藤由美さんにお話を伺いました。

2021年、両側同時人工股関節 置換手術を受ける

若い頃から和服の生活を続けていたので、大股で歩かないように歩幅を狭くして、座るときも「お姫さま座り」で、常に正座か横座りで股関節を開かないようにしていました。つまりかなり不自然な歩き方や座り方を仕事のために長年続けていたのです。

スポーツは学生時代には水泳の選手でしたが、仕事柄ゴルフは必須で、一時は登山も「百名山」の制覇を目指していたこともありましたが、股関節が痛み始めてからは、唯一の運動はゴルフだけでした。その結果、股関節の可動域が狭くなって筋肉が硬直しやすくなり、関節にかかる力のバランスが崩れたり、関節の決まった部分だけに過剰な負荷がかかりやすくなってしまいました。その部分の関節軟骨がすり減ってしまったため、2016年頃から痛みを感じ始めました。最初は左脚の股関節が痛くて、脚が短くなったように感じ、次第にそれを庇っているうちに

右の股関節も悪くなってしまいました。でも我慢強い性格なので、「手術だけは受けたくない…」と徐々に強くなる痛みを凌いでいました。

そんな姿を見たお客様からマッサージや整体や鍼灸などの有名な先生を紹介されたり、鍼治療や整体による治療に遠方まで通って、試すこともありました。でも効果なくお店での立ち座りや、階段の昇り降りもますます難しくなってしまいました。その後、ある「大切な人」から、「由美ママ、手術をしたほうがいいよ」と強く勧められたことがきっかけとなり、手術を受ける決心がつかしました。

ところが新型コロナウイルス感染症のパンデミックの影響で、東京オリンピック期間中に予定していた手術が延期になってしまい、約1年半後の2021年1月31日に入院し、2月1日に両側同時人工股関節置換手術を受けました。入院前の検査で左脚が右脚よりも3センチも短いことがわかり、身長も縮んでしまっていたのですが、主治医から「手術すれば元に戻りますよ!」と励まされて、その言葉通りに退院後

伊藤 由美 (いとう・ゆみ)

東京生まれの名古屋育ち。18歳で上京、有名クラブで活躍後、1983年、23歳でオーナーママとして【クラブ由美】を開店。今春「開店満42周年目」を迎えた。17年11月「シャンパーニュ騎士団」より叙勲、オフィシエ・ドヌールを叙任。著書に『運と不運には理由があります!』『銀座の矜持』『スィスイ出世する人、デキるのに不遇な人』『できる大人は男も女も断わり上手』『銀座のママにビジネス哲学を聞いてみたら』（ワニブックスPlus新書）など。また、2017年&2021年『徹子の部屋』二度出演!「一般社団法人銀座社交料飲協会」常任理事。【小淵沢カントリークラブ】理事。

◆由美HP <https://yumi-ito.com/>

◆Instagram <https://www.instagram.com/ginzayumimama/>

◆銀座由美ママの心意気 <https://ameblo.jp/ginzayumimama>





には以前の167センチに戻っていて、すごくうれしかったです。

もっと早く手術をすればよかった…

手術直後は痛みよりも、自分の脚が見たこともないくらいに腫れ上がって、脚の感覚が全くなかったので、本当に歩けるようになるのか、元の体に戻るのかと不安でした。しかし不安に思う間もなく、手術3日後には起き上がられ、リハビリテーション治療が始まり、ベッドから立ち上がり、歩行器や理学療法士の先生方に支えてもらいながら、歩行訓練が始まりました。

2週間の入院を経て、退院したその日には着物を着て銀座のお店に復帰することができ、また、1カ月後の3月1日にはゴルフを楽しむことができました。クラブを杖代わりに少しだけ歩き、ドライバーも打てました。ただ、一度しゃがんでしまうと、立ち上がることが困難なため、ティーは自分でさせませんでした…。

現在も半年に1度、X線撮影をして経過を観察しています。主治医の先生からは、「転ぶと大きく骨折するリスクがあるので、くれぐれも転ばないように気を付けて」と、毎回アドバイスを受けています。

振り返ると、「もっと早く手術をしておけばよかった…」と思います。いまこうして人の手を借りずに歩いたり、階段を昇ったりできるようになったことで、いかに手術前の自分がまわりの皆様に心配や負担をかけていたかに気が付きました。人に助けてもらうことが当たり前になって甘えていましたし、自分自身の痛々しい哀れな姿に気付かず、たくさん迷惑をかけていたと思います。

熟年結婚した夫が突然、 帰らぬ人に…

手術によって取り戻せた健康な生活ですが、やはり私には銀座のお店があって、大好きなスタッフに囲まれて、お店に来てくださるお客様がいるから、生かされているのだと思います。つい最近も、お店とスタッフ、そしてお客様に、助けてもらったことがあります。それは突然訪れた夫とのお別れです。夫とは、数年前に熟年結婚をして、仲睦まじく暮らしていました。私も老齢の夫が病気になったら介護



をして、夫の人生の最期を看取ることを心に決めておりました。私に手術を勧めてくれた「大切な人」というのは夫で、そのとき私も、「そうだ、私が手術をすれば、何の不自由もなく自分で夫の介護ができる!」と思い、手術をする決心がついたのです。

それなのに夫を介護することなく、ある日突然、帰らぬ人になってしまいました。その喪失感は想像

以上に大きく、目の前が真っ暗で、食事もうを咽を通りませんでした。けれども、私のお店をこよなく愛してくれた夫の気持ちを想うと、亡くした悲しみで、お店を休むのは申し訳ないことだと思い、毎日お店に出勤し、何とか少しずつ気力を取り戻しました。もしお店がなかったら、心身ともにボロボロになっていたと思います。今は、夫の肉体はこの世に存在しなくなりましたが、夫の魂はいつも私のそばにいて、やさしく見守ってくれているのを感じています。

銀座のお店は私の生き甲斐

唯一の心配は、夫の死にショックを受けて体調を崩してしまった私の母です。

自分自身は何とかできる正常な体を取り戻せたので、母にはできるだけ寄り添う努力はしておりましたが、転倒し歩けなくなったことが原因で2月から介護施設に入所となりました。

でも、母が心配で毎日会いに出かけております。

42年にわたるクラブ経営を継続しながら、お陰様で8冊の本を執筆させていただきましたが、これからもいろいろなテーマで本を書いてみたいと思います。そして、大好きな人たちに囲まれて、大好きな銀座のお店をできることならば、いつまでも続けたいですね。お店は私の生き甲斐ですから…。

『股関節学第2版』出版のお知らせ

菅野 伸彦（日本股関節学会理事長）



股関節学の集大成である教科書「股関節学」を10年ぶりに改訂し、この度「股関節学第2版」が出版できる運びとなりました。日本股関節学会50周年の記念となる本書は、日本股関節学会監修のもと、菅野伸彦・久保俊一総編集、稲葉裕・神野哲也・杉山肇・中島康晴編集で、1000以上の新文献を採用し（文献総数 約4,400）、図表も増やし（約1,300点）、200以上の製品写真を掲載したデータベースを加えた知悉便覧を更新し、各種ガイドラインの最新版を網羅しながら、基礎から臨床に至るまで、股関節学の最新情報が得られる書となっています。書籍サイズはA4変形判からB5判へコンパクトにしつつも、情報量（文字数）を増やし、表紙カバーをつけています（図）。会員の皆様のみならず、病院図書にぜひ加えていただければと存じます。

日本股関節学会海外研修制度 帰朝報告



群馬県出身
2003年東京医科大学を卒業し、同大学整形外科に入局。
2005年米国ロマリンダ大学へ留学、茨城医療センター、信濃医療福祉センター、大島医療センター、都立大塚病院、戸田中央総合病院整形外科部長を経て、2019年より現職。



石田 常仁 東京医科大学整形外科分野 講師

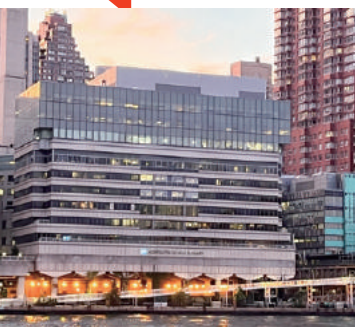
研修先：：Hospital for Special Surgery (HSS) 米国、ニューヨーク

研修期間：2023年7月17日より8月31日



私は、Robotic Surgeryを用いた人工関節手術を学ぶためHospital for Special Surgery (HSS) で7週間の研修をさせていただきました。HSSは全米を代表する整形外科領域に特化した病院で、MAKOを6台所有し、1万2千件/年の人工関節手術を行っております。Dr. Seth A. JerabekとDr. Jonathan M. Vigdorchikの2人のホストのもと研修期間中に計148件(THA:72件、TKA:60件、UKA:14件、他:2件)の手術を経験することができました。THA術前計画では、症例毎に脊椎・骨盤パラメーター、姿勢変化を考慮したtotal alignmentで評価、術中はRobotを用いて正確なインプラント設置を再現しておりました。ホスト1人で6-8件/日の手術数、平均BMI 30、THAは日帰り、TKAは1泊入院など多くのカルチャーショックや異国の術野での緊張感はありませんでしたが、温かい2人のホストや楽しいコメディカル達のおかげで大変有意義な研修生活を送ることができました。また週末は家族とNYの物価高、円安に負けないプライスレスな思い出を沢山作ることができました。最後にこのような素晴らしい機会と大きな希望を与えていただいた菅野伸彦理事長、山本卓明理事をはじめ日本股関節学会の皆様にご心より感謝申し上げます。

HSS、NY生活などについては、当科ホームページでも報告しておりますのでぜひご参照下さい。<https://tmuortho.ssc.works/report/>





大分県出身
1998年佐賀医科大学
卒業
佐賀大学教育関連施設
やえにわ病院などで勤
務し2008年より佐賀
大学医学部整形外科助
教、2019年より現職
専門は股関節外科

河野 俊介 佐賀大学医学部人工関節学講座 准教授

研修先：University Hospital Bern スイス

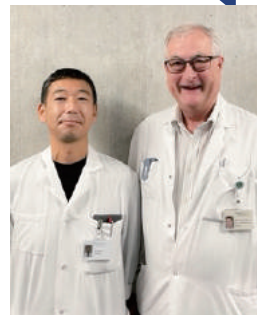
研修期間：2023年11月1日より11月30日



今回、University of Bern, Inselspitalにて1か月間の研修をさせて頂きました。当初2020年11~12月の研修予定でしたが、COVID-19のために延期となり、第50回日本股関節学会終了翌日にスイスに向けて出国することとなりました。

University of Berne は、Bernese Osteotomy や Surgical Dislocation、FAIの提唱などで知られた股関節温存手術における欧州随一の施設であり、これまであまり経験したことのなかったFAI診療を実際に見学できることを楽しみにしておりました。

毎朝7時15分からカンファが始まり、水曜の外来日以外は毎日4例前後の手術が行われていました。THAと共にFAIに対する症例が多く、手技やASの適応などについて細かく教えて頂きました。また、形成不全股だけでなくretroversion Hipに対するPAOやPAOとSDの同時症例も見学でき、適応の違いや矯正目標角度などに関してdiscussionでき今後の参考となりました。そのほか寛骨臼骨折など外傷の手術も手習いさせてもらい、個人的に興味のあった銀コーティング腫瘍用人工物補綴材を使用したPJIを手術に入れた事も刺激となりました。



Siebenrock 教授と



ユングフラウヨッホにて
(屋内)

休日はBernや近隣の街の散策を楽しみましたが、11月後半には降雪が始まり1000mを超えた山では積雪しており、せっかく訪れたJungfrauochも吹雪でアレッチ氷河などは見れず是非夏季にまた訪れたいと考えております。

1か月と短い期間でしたがSiebenrock教授からDunn変法のlectureを直接して頂いたり、寛骨臼移動術に関するプレゼンの機会を頂いたり大変充実した時間を過ごし、何事にも変え難い貴重な経験を得ることができました。快く送りだして頂いた馬渡教授をはじめ医局員に感謝し、このような機会を与えて継続頂きました杉山肇前理事長、安永裕司監事、菅野伸彦理事長、山本卓明担当理事に深く御礼申し上げます。



カンファランスにてTOAのプレゼンテーション

日本股関節学会海外研修制度 帰朝報告



京都府出身
2001年韓国ソウル大学医学部を卒業し、京都大学整形外科に入局。関連病院を経て同大学院卒業後、2016年自身が外傷性OAに対してTHAを受け、2017年フランス(パリ)に2年間留学。Hip-Spine Relationshipの父であるPr. JY Lazenecと出会い脊椎骨盤アライメントの臨床研究をライフワークに。

金 永優 京都市立病院整形外科 人工関節部長

研修先：① Mayo Clinic 1週間 / ② Yale New Haven Hospital 1週間 / ③ Hospital for Special Surgery 2週間 / ④ New York University Langone Hospital 1週間

研修期間：2023年8月28日より9月29日

【目的】

憧れの全米トップ病院で活躍する同世代の若きトップリーダーを訪問し、世界基準での自分の立ち位置を確認し、憧れの存在を超えるためのヒントを得る。

【結果】

① **MJ Taunton** [人] 伝統的後方進入THAのMayoに前方進入を導入し最年少教授となる。歴史を変えた気さくな良い男 [病院] 田舎にある世界一の病院。次元が違いすぎて全く勝ち目なし。全米レジデントの憧れの病院。[手術] THA、TKAを7件/day。AI assist image Navi使用 [研究] 研究室に研究員が6名

② **EP Aidin** [人] イラン出身でアメリカンドリームを目指し卒業後渡米。英語堪能。才能非凡 [病院] 異次元さはなし [手術] 後方進入THA。Naviなし [研究] データベースがなく困惑中。優秀でもポジション取りは困難

③ **J Vigdorich** [人] HSSで最も論文の多い、良い男。年収は僕の20倍以上 [病院] 世界最高の整形外科病院。異次元 [手術] Mako specialist。後方進入THA [研究] アイデアのみだし研究員の自動論文作成システム完成済。コラボ多数による共著者論文連発システム完成済

④ **R Schwarzkopf** [人] 進行研究200の男。常に研究の進行具合の確認。論文100本超男はさすがに神経質 [病院] NYマンハッタンの超巨大病院 [手術] Navi使用後方進入THA、Robots TKA。[研究] 完成されたチーム。自動論文作成システム完成済。

【結論】 みんな普通の人。常にリサーチマインド。チームの重要性(一人じゃできない)。仕事だけが人生じゃない(家族を大切に)。

【最後に】 このような素晴らしい機会を与えていただきました菅野伸彦先生、山本卓明先生、股関節学会の皆様様に深く御礼申し上げます。

カンファランスにてTOAのプレゼンテーション



比較図	Kyoto City Hospital	① MAYO CLINIC	② YALE	③ HSS	④ NYU LANGONE
データ 2023年					
年齢	47	44	47	41	48
僕との関係		友人	友人	面識なし	面識なし
手術件数 THA	180	150	70	250	250
手術件数 TKA	100	150	70	250	250
手術の技術		技術的な有意差なし(私見)			
論文 First/Last	2	2	1	17	53
Coauthor	1	16	1	13	61
研究環境	★	★★★★★	★	★★★★★	★★★★★
施設環境	★	★★★★★	★★★	★★★★★	★★★★★
家族との時間	★	★★★★★	★	★★★★★	★★★★★

第3回日本股関節学会 骨切りセミナー

日本股関節学会
ニュースレター

日本股関節学会骨切りセミナー担当理事：兼氏 歩（金沢医科大学整形外科）



令和6年4月5日（金）、6日（土）に第3回日本股関節学会骨切りセミナーが開催されました。セミナーの講師は第2回と同じで、寛骨臼側としてCurved Periacetabular Osteotomy (CPO) およびSpherical Periacetabular Osteotomy (SPO) を各々、北里大学整形外科講師福島健介先生と飯塚病院整形外科部長原俊彦先生に、大腿骨側として大腿骨頭回転骨切り術を福岡大学整形外科教授山本卓明先生と横浜市立大学整形外科教授稲葉裕先生にお願いしました。第2回に70名と多くの先生方から参加申し込みがあったものの、半分以下の先生しか参加していただけなかったため第3回も同じ講師陣にお願いさせていただきました。この結果、第2回で参加できなかった先生も全員上記手術を研修していただくことができました。ベッドサイド参加は12名、見学参加は18名で合計30名の先生方が熱心に受講され、また手術手技を学ばれていました。カダバーサージカルトレーニングでは画像撮影は外部漏出の懸念があり、これまで禁止されることが多かったのですが、第3回の本セミナーでは名古屋市立大学解剖学教室様、名古屋市立大学整形外科教室様のご理解をいただきSNSへ絶対に出さないことだけでなく、他人への画像の提供もしないことなどにつき同意を事前にいただくことで許可していただきま

した。日本股関節学会としても更に厳しい処分を含めた同意書にサインをいただくことで動画を含めた画像撮影を許可することにしました。この動画撮影はご自身の復習と実際の執刀時に大きな参考になるものと確信しており、今後参加される先生方にも大きな期待と参加意義の価値が上がると考えており第4回以降も是非許可していただけるよう努力していこうと思います。

セミナー後のアンケート結果は非常に高評価であり、今回の骨切りセミナーも参加の先生方に十分満足いただける内容になったと思います。見学参加の先生方にも術野確認がしやすいようにヘッドセット型のビデオカメラで撮影しi-padで確認できるようにしたのですが、うまく機能しないことがあったため、術野が見えにくいなどのご意見もいただきました。今後の課題と考えます。

第4回のセミナーに関して、日本股関節学会骨切りセミナー実施検討委員会を開催し、意見を集約した結果、下記のように決定致しました。次回も非常に素晴らしい講師陣と内容になっています。股関節外科医として知っておくべき、また習得していただきたい内容になっていると思いますので多くの先生方のセミナー申し込みをよろしくお願い申し上げます。

第4回日本股関節学会骨切りセミナーのご案内

日時：令和7年4月11日（金）・12日（土） 会場：名古屋駅JPタワー / 名古屋市立大学

講師及び術式

広島県立総合リハビリテーションセンター	安永 裕司先生：RAO/ 大腿骨彎曲内反骨切り
横浜市立大学	稲葉 裕先生：大腿骨頭回転骨切り術
九州大学	本村 悟朗先生：寛骨臼移動術 / 大腿骨頭回転骨切り術
静岡赤十字病院	西脇 徹先生：SPO

第5回日本股関節学会 教育セミナーを開催して(アドバンスコース)

担当理事：上島 圭一郎（がくさい病院）・加谷 光規（加谷整形外科スポーツクリニック）

第5回日本股関節学会教育セミナー（アドバンスコース）2024年4月7日に名古屋（JPタワー名古屋 ホール&カンファレンス）で開催いたしました。アドバンスコースは関節鏡コースとエコーコースの2コースから選択できるセミナーになっています。午前中に2コース共通の座学講習を聴講して頂き、午後からはそれぞれのコースに分かれて実技講習を実施しました。

セミナー当日は、関節鏡コース19名、エコーコース19名の先生方に全国から参加して頂きました。今回も全国から多くの先生方に座学講師、実技インストラクターのとしてもご協力を頂きました。実技講習に十分な時間を確保できるようにして、経験、実績のある講師陣の指導のもと、参加された先生方は大変熱心に技術習得に取り組んでおられました。

関節鏡コースはdry modelを使用した講習でしたが、股関節鏡のポータル作成や操作方法、関節唇縫合のポイントに関する細かなテクニックまで講師の先生方が丁寧に指導されていました。本セミナーは関節鏡技術認定の

申請や股関節鏡のカダバーセミナーへ応募する際にも、本アドバンスコースの受講終了していることが要件になっています。

エコーコースでは、受講者の先生方に互いに被検者役にもなって頂き、講師の先生方から股関節と周囲組織の描出法、使用機種や使用プローベによって得られる画像の違いなど学んで頂けたと思います。参加者の先生方にはエコーの技術を習得することが、日常診療における診断力や治療の向上につながることを実感して頂けたと思います。それぞれのコースを選択された先生方も空いた時間で他のコースの実技の様子も見学することができました。

最後にセミナー開催に多大なご協力頂いた講師の先生方、関連企業の皆さまにこの場を借りて御礼を申し上げます。今後もアドバンスコースの内容も少しずつ見直ししながら、開催を継続していきたいと考えております。学会員の皆さまのご参加をお待ちしています。

	開会のあいさつ	高木 理彰（日本股関節学会 教育担当）
	理事長挨拶	菅野 伸彦（日本股関節学会 理事長）
共通講義Ⅰ	座長：上島 圭一郎（京都地域医療学際研究所 がくさい病院）	
	1) 超音波エコー，股関節鏡手術に役立つ股関節の解剖学	木島 泰明（秋田大学）
	2) 超音波エコー，股関節鏡手術に役立つ股関節の病態学	小林 直実（横浜市立大学市民総合医療センター）
	3) 股関節痛の原因組織（関節内と関節外）	山崎 琢磨（呉医療センター）
共通講義Ⅱ	座長：加谷 光規（加谷整形外科スポーツクリニック）	
	1) 股関節病に対する股関節鏡手術の実際	内田 宗志（産業医科大学若松病院）
	2) 股関節超音波エコー描出法とインターベンション	崔 賢民（横浜市立大学）
実技講習	股関節鏡インストラクター	山田 和希（岡山大学）／館田 健児（札幌孝仁会記念病院） 大原 英嗣（市立ひらかた病院）／若間宮 啓（大阪医科薬科大学）
	エコーインストラクター	錦野 匠一（錦野クリニック）／藤井 昌（市立秋田総合病院） 崔 賢民（横浜市立大学）



第2回日本股関節学会 FAI 関節唇カダバーセミナー

日本股関節学会
ニュースレター

金治 有彦 (藤田医科大学ばんだね病院整形外科)

第2回FAI関節唇カダバーセミナーが2023年11月10日、11日に菅野伸彦理事長、杉山肇監事以下18名が参加するなかで開催されました。本カダバーセミナーは安全な手術手技の普及や教育を目的に年1回開催されており、対象は股関節鏡視下手術の技術向上を目指す股関節外科医で、日本股関節学会教育研修セミナー-アドバンスコース(股関節鏡コース)の受講完了が必須条件となっています。まず11月10日にJPタワー名古屋で講師の内田宗志先生と宇都宮啓先生の手術動画を中心とした講義が行われ、11日に藤田医科大学カダバーセンターで実臨床に近い形での実習が行われました。カダバー実習では、参加者が関節鏡を股関節内に挿入して関節唇縫合の手技を体験したうえでCam切除を経験することができました。本カダバーセミナー終了後のアンケート調査では参加者の満足度はとても高いものでした。

第3回FAI関節唇カダバーセミナーも2024年11月に開催予定です。今後も菅野理事長、杉山肇監事、兼氏歩理事をはじめ諸先生方のご指導の下、有意義なカダバーセミナーとなるように企画していきたいと考えています。

参加メンバー

菅野 伸彦 理事長

杉山 肇 監事

金治 有彦 学術理事

講師

内田 宗志 (産業医科大学若松病院)

宇都宮 啓 (東京スポーツ整形外科クリニック)

原口 敏昭 (久留米大学医療センター整形外科・関節外科センター)

松澤 岳 (いわき市医療センター)

原 大介 (九州大学)

関 健 (東京医科大学)

参加者

山本 浩基 (京都第二赤十字病院)

平野 優樹 (新潟大学)

坂井 宏章 (名古屋市立大学)

野崎 あさみ (新潟県立新発田病院)

見学者

大矢 昭仁 (慶應義塾大学)

梅津 太郎 (済生会中央病院)

大矢 昭仁 (慶應時塾大学)

補助

梅津 太郎 (済生会中央病院)

渡邊 宣之 (公立陶生病院)



第10回日本股関節学会 教育研修セミナーご案内 (ベーシックコース)

股関節の専門医を目指す若い医師の育成を目的に教育研修セミナーを開催します。

股関節の外傷や疾患は、小児から高齢者に至るまで幅広く、また、様々な全身疾患や障害とも関係しております。股関節の専門医として適切に診断と治療を行うためには、股関節に関する基礎科学から手術まで幅広い知識が求められます。

本セミナーを通して、多くの若い医師が、これらの専門的な知識を習得して、これからの股関節学会を担ってもらうことを期待しております。

日 時：2024 年 10 月 24 日（木曜日） 10：25～15：05

会 場：岡山コンベンションセンター 2F「レセプションホール」
(〒700-0024 岡山県岡山市北区駅元町14番1号 Tel.086-214-1000)

参加費：12,000 円（現地参加）、15,000 円（オンデマンド参加）

参加数：150 名

単 位：日本整形外科学会教育研修単位が認められております。

各セッション1単位、受講単位は1日4単位まで取得可能です。

受講料1単位1,000 円

※ セミナー現地開催終了後オンデマンド配信します（単位受講有料）



参加方法：第51回日本股関節学会学術集会ページより参加登録してください。

<https://www.kwcs.jp/hip51/>

プログラム

10：25～10：30	開会挨拶	高木 理彰（教育研修セミナー 担当理事）
	理事長挨拶	菅野 伸彦（日本股関節学会 理事長）
10：30～11：30	I 股関節診療 モデレーター 馬庭 壮吉	
	1) 股関節専門外来診療	宇都宮 啓（東京スポーツ&整形外科クリニック）
	2) 股関節の画像診断：XP、CT、MRI、エコーなど	濱田 英敏（大阪大学）
11：30～11：40	休憩	
11：40～12：40	II 股関節手術合併症の対処 モデレーター 上島 圭一郎	
	1) 股関節感染の治療の基本	崔 賢民（横浜市立大学）
	2) ステム周囲骨折の治療の基本	馬場 智規（順天堂大学）
12：40～12：50	休憩	
12：50～13：50	III 小児股関節 モデレーター 佐々木 幹	
	1) ペルテス病の診断と治療	瀬川 裕子（東京医科歯科大学）
	2) 大腿骨頭すべり症の診断と治療	川口 泰彦（調布東山病院）
13：50～14：00	休憩	
14：00～15：00	IV 手術 モデレーター 加谷 光規	
	1) 人工骨頭 / 人工股関節の基本構造と違い	立岩 俊之（東京医科大学）
	2) 大腿骨近位部骨折（頸部骨折、転子部骨折）の骨接合術	徳永 真巳（福岡整形外科病院）
15：00～15：05	閉会挨拶	高木 理彰（教育研修セミナー 担当理事）

委員会活動報告 (社会保険委員会)

—令和6年度の要望を終えて—

日本股関節学会
ニュースレター

社会保険委員会委員長：高平 尚伸 (北里大学)

令和6年度の要望項目の提出した委員会活動の結果を報告致します。1.人工関節置換術(ロボット支援手術)の新設(日本人工関節学会と日本整形外科学会との共同提案)、2.寛骨臼移動術の増点(改正)(日本整形外科学会との共同提案)、3.股関節唇縫合術(関節鏡下)における関節鏡下骨軟骨形成加算(改正)の3つを要望していましたが、1.は「K082-7 人工股関節置換術(手術支援装置を用いるもの)」として新たに保険収載されることになりました。一方、寛骨臼移動術の増点と股関節唇縫合術(関節鏡下)における関節鏡下骨軟骨形成加算の要望は認められませんでした。K082-7については診療報酬の算定方法の一部改正に伴う実施上の留意事項について(通知)[令和6年3月5日 保医発0305第4号001219505.pdf (mhlw.go.jp)]と別添1 医科診療報酬点数表に関する事項001240265.pdf (mhlw.go.jp)で、変形性股関節症患者に対して、術中に光学的に計測した術野及び手術器具の位置関係をリアルタイムに表示し、寛骨臼及び大腿骨の切削を支援する手術支援装置を用いて、人工股関節置換術を実施した場合に算定するとされています。特定診療報酬算定医療機器の定義等について(保医発0305第11号)には、診療報酬項目K082-7の特定診療報酬算定医療機器の薬事承認上の位置付けとして、一般的名称:手術用ロボット手術ユニットと明記されています。よって、この通知を見れば、薬事承認上のナビゲーションを使用した場合は、K082-7として算定できないと思いますが、留意事項通知の曖昧な表現による疾患適応と対象装置に関する混乱が危惧されると考えますので、本委員会からは外保連を通して厚生労働省へ不合理・矛盾点アンケートを提出させて頂くこととしました。その結果、「特定診療報酬算定医療機器の定義等について」(令和6年3月5日保医発0305第11号)に掲げる定義に適合する医療機器が該当する、また、現時点では、日本整形外科学会のデータベースであるJOANRに症例を登録し、手術適応等の治療方針の決定及び術後の管理

等を行っている場合を指す、として示されました。

さて、次は、令和8年度改正に向けて、理事及び評議員の先生から6件の要望を頂き、本委員会ではこれらの内容につき審議をしています。内容については、新設技術とするのか改正(加算を含む)とするのか、そもそも手術の医療技術(手技)として要望するのかなど、検討が必要です。新設項目を要望する際には、外科系の他の学会からの社会保険委員の承認も得る必要があります。さらにエビデンスとして50例以上の実態調査が必要になります。加えてガイドラインへの推奨は必須であり、レジストリーの報告も重要事項になります。要望の1つに、セメントの関連備品の診療報酬請求が挙がっていますが、審議事項として苦勞をしています。そもそも、対象術式が人工股関節全置換なのか人工骨頭挿入術なのか混在しています。他にノズルカッターの有無など企業により偏りがあり、練り直さなければならない点が山積です。もし術式であれば、セメント術式がセメントレス術式と比較して技術の優位性のエビデンスが必要です。そもそも、関連備品は術式ではないので、体内に残存しない周辺機器に保険算定されることは極めて異例であり、本件要望は現状のところ困難であると言わざるを得ないと判断されますが、引き続き検討して参ります。

本委員会としましては、本学会員の診療技術の価値が保険に適正に反映されるように活動しており、皆さまにおかれましては、その価値を証明できるエビデンス構築に引き続きご支援いただければ幸いです。



変形性股関節症診療 ガイドライン 第3版

日本股関節学会
ニュースレター

診療ガイドライン策定委員長：中島 康晴（九州大学）

2024年5月に変形性股関節症診療ガイドライン第3版が出版されました。改訂第2版が出版されたのが2016年ですので8年ぶりの改訂です。

第3版の作成方針は第2版を基本的に踏襲したのですが、「Minds 診療ガイドライン作成マニュアル2017」を基にアップデートされた方法で作成されました。「疫学」、「病態」、「診断」などは、要約・解説の形式に統一し、background question (BQ)として前版の内容に新知見を加えたものです。治療に関しても、すでに確立され、広く受け入れられている内容はBQとして記載しました。Clinical Questionはより実臨床に即した内容に整理を行い、エビデンスを定性的または定量的にメタ解析することを基本としています。すなわちsystematic reviewを行い、それらを統合してエビデンスレベルを決める手法を取っています。また「益と害」の概念も取り入れ、治療の効果(益)のみを記述するのではなく、合併症の発生などもバランスよく記載することを重要視し

ました。推奨文は「行うこと / 行わないことを強く / 弱く 提案する」という統一された形式で表現し、現在推奨を決められなくとも、今後の研究が期待される内容のQuestionはFuture Research Question(FRQ)として

取り上げました。最終的な推奨を決定するまでには多くの方にアドバイスをいただきました。特に日本医療機能評価機構EBM医療情報部の吉田雅博先生には毎回の委員会にご出席いただき、委員たちが直面した問題に都度適切な助言をいただきました。改めて厚く御礼を申し上げます。キックオフして約3年間の時間が流れ、ここに変形性股関節症診療ガイドラインを上梓することができました。本ガイドラインが医師と患者の治療選択をより具体的にサポートできることを心より祈念致します。



日本股関節学会役員一覧

日本股関節学会役員をご紹介します。

役職	氏名	所属・職名
理事長	菅野 伸彦	(医)協和会川西市立総合医療センター人工関節センター センター長
	稲葉 裕	横浜市立大学大学院医学研究科運動器病態学(整形外科) 教授
副理事長	山本 謙吾	東京医科大学整形外科 教授
	山本 卓明	福岡大学医学部整形外科 教授
理事	伊藤 浩	旭川医科大学整形外科 教授
	上島 圭一郎	京都地域医療学際研究所 かくさい病院整形外科 院長
	大川 孝浩	久留米大学医療センター整形外科 教授
	兼氏 歩	金沢医科大学整形外科科学講座 教授
	斎藤 充	東京慈恵会医科大学整形外科科学講座 教授
	坂井 孝司	山口大学大学院医学系研究科整形外科 教授
	神野 哲也	獨協医科大学埼玉医療センター整形外科 主任教授
	須藤 啓広	ヨナハ丘の上病院整形外科 部長・院長代行
	高尾 正樹	愛媛大学大学院医学系研究科整形外科科学 教授
	高木 理彰	山形大学医学部整形外科科学講座 教授
	高平 尚伸	北里大学医療衛生学部 教授
	帖佐 悦男	宮崎大学医学部整形外科 教授
	中島 康晴	九州大学大学院医学研究院整形外科科学分野 教授
	中村 琢哉	富山西総合病院整形外科・股関節外科 科長
	馬渡 正明	整形外科 LYFART 院長
	三谷 茂	川崎医科大学骨・関節整形外科科学教室 教授
監事	久保 俊一	京都府立医科大学 特任教授
	杉山 肇	神奈川リハビリテーション病院整形外科 病院長
	安永 裕司	広島県立障害者リハビリテーションセンター 所長
学術理事	内田 宗志	産業医科大学若松病院整形外科・スポーツ関節鏡センター 診療教授
	金治 有彦	藤田医科大学ばんだね病院整形外科 教授
	加畑 多文	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科整形外科 准教授
	加谷 光規	加谷整形外科スポーツクリニック整形外科 院長
	穴戸 孝明	東京医科大学病院整形外科 教授

新評議員・学術評議員よりご挨拶

1. 正規所属名称・肩書 2. 専門分野 3. 評議員に就任した抱負

後藤 公志(ごとう こうじ)

1 近畿大学医学部整形外科科学教室 主任教授

2 股関節外科

3 この度は、評議員に任命いただきまして大変光栄に感じております。微力ではありますが、伝統ある本学会の発展に尽力したいと考えております。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

坂本 優子(さかもと ゆうこ)

順天堂大学医学部附属練馬病院整形外科 科 准教授, 小児・AYA世代ポーンヘル スケアセンター センター長

2 小児整形外科 骨代謝性疾患

3 この度は伝統ある本学会の評議員を拝命し、大変光栄に存じます。小児整形外科の分野から諸先輩方の伝統を引き継ぎ、医療の発展とさらなる社会貢献ができるよう尽力して参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

鉄永 智紀(てつなが ともり)

1 岡山大学学術研究院医歯薬学域 運動器地域健康推進講座 准教授

2 成人股関節外科、小児股関節外科、慢性疼痛

3 この度は伝統のある本学会の評議員に選出していただきまして誠にありがとうございます。微力ではありますが本学会の発展のために尽力させていただきますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

中村 祐敬(なかもら まさひろ)

1 市立甲府病院整形外科 部長

2 人工股関節、股関節鏡

3 評議員に任命いただき大変光栄に存じます。持ち味を生かした研究で股関節分野の進展に貢献したいと考えております。また受け継いだ技術・知見の継承とさらなる発展に尽力して参ります。ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

名誉会員

東 博彦
飯田 寛和
石井 良章
糸満 盛憲
井村 慎一
岩田 久
遠藤 直人
川手 健次
小宮 節郎
進藤 裕幸
高岡 邦夫
鳥巢 岳彦
内藤 正俊
浜田 良機
稗田 寛
松永 隆信
松野 丈夫
松本 忠美
宮岡 英世
山田 治基

評議員

青田 恵郎	岡野 邦彦	坂本 優子	中村 健	間島 直彦
秋山 治彦	岡野 徹	佐々木 幹	中村 知寿	松下 功
阿久津 みわ	岡上 裕介	佐藤 敦子	中村 宣雄	松田 秀一
浅海 浩二	尾崎 敏文	佐藤 貴久	中村 祐敬	松峯 昭彦
阿部 功	尾崎 誠	穴戸 孝明	中村 吉秀	馬庭 壮吉
安保 雅博	加来 信広	島 直子	中村 嘉宏	馬渡 太郎
安藤 渉	榎野 良知	神野 哲也	名越 智	馬渡 正明
飯田 哲	柁原 俊久	菅野 伸彦	西井 孝	三浦 陽子
伊賀 敏朗	金治 有彦	鈴木 卓	西田 圭一郎	三木 秀宣
池内 昌彦	兼氏 歩	瀬川 裕子	西野 衆文	三島 初
池村 聡	加畑 多文	関 泰輔	西山 大介	三谷 茂
石堂 康弘	加谷 光規	高尾 正樹	西山 隆之	宮坂 大
石崎 恭之	苅田 達郎	高木 理彰	萩原 茂生	宮武 和正
市堰 徹	川崎 雅史	高窪 祐弥	橋本 慎吾	宮西 圭太
伊藤 重治	河野 俊介	高橋 大介	長谷川 正裕	宮本 健史
伊藤 浩	河原 郁生	高平 尚伸	蜂谷 裕道	宗像 裕太郎
伊藤 芳毅	河村 春生	武石 浩之	馬場 智規	最上 敦彦
稲葉 裕	木島 泰明	立岩 俊之	濱井 敏	本村 悟朗
今井 晋二	北川 由佳	田中 歩	濱田 英敏	森島 達観
今井 教雄	木下 浩一	田中 栄	林 申也	森田 充浩
今金 崇	金光 成	田中 隆治	羽山 哲生	諸橋 達
岩崎 倫政	久米 慎一郎	谷口 隆哉	原 俊彦	山口 亮介
岩瀬 敏樹	桑沢 綾乃	谷野 弘昌	兵頭 晃	山崎 琢磨
岩田 憲	古賀 大介	種市 洋	平川 和男	山田 晋
上島 圭一郎	小久保 安朗	崔 賢民	平澤 直之	山村 在慶
内田 宗志	小助川 維摩	筑田 博隆	福島 健介	山本 卓明
内山 勝文	後藤 公志	鉄永 智紀	藤井 英紀	山本 豪明
江川 洋史	後藤 毅	土井田 稔	藤井 政徳	山本 泰宏
おおえ 賢一	後東 知宏	徳永 邦彦	藤岡 幹浩	脇阪 敦彦
大川 孝浩	後藤 昌子	富沢 一生	藤田 裕	渡邊 宣之
大谷 卓也	小林 直実	中島 康晴	藤原 勇輝	渡邊 弘之
大橋 弘嗣	齊藤 正純	仲宗根 哲	星野 裕信	渡會 恵介
大原 英嗣	齋藤 充	中田 活也	堀内 忠一	
大山 正瑞	坂井 孝司	中原 一郎	前澤 克彦	
大湾 一郎	坂本 武郎	中村 琢哉	前田 ゆき	

学術評議員

青木 清
石田 雅史
内原 好信
宇都宮 啓
大鶴 任彦
大橋 寛憲
鎌田 浩史
川崎 展
坂本 哲哉
山藤 崇
庄司 剛士
瀬戸口 啓夫
園畑 素樹
高田 亮平
田中 健之
千葉 大介
中村 順一
錦野 匠一
西脇 徹
藤原 憲太
箕田 行秀
三村 朋大

西山 大介 (にしやま だいすけ)

- 1 和歌山県立医科大学
整形外科講座 講師
- 2 股関節外科 膝関節外科
関節リウマチ
- 3 この度は、伝統ある本学会
の評議員に任命いただき、
大変光栄に存じます。本会
の発展に寄与できるよう努
めて参ります。今後ともご
指導よろしくお願ひ申し上
げます。

林 申也 (はやし しんや)

- 1 神戸大学大学院医学研究科
整形外科講座 講師
- 2 人工股関節、関節温存手術
- 3 この度は日本股関節学会の
評議員に選任いただきまし
て大変光栄に存じます。本
学会と日本の股関節外科の
発展、さらに後進の指導に
全力を尽くして参りたいと
思っております。どうぞよろ
しくお願ひいたします。

平澤 直之 (ひらさわ なおゆき)

- 1 医療法人社団北水会北水会記念病院 病院長
- 2 人工股関節全置換術、人工股関節再置換術、股関節周囲骨切り術
- 3 この度日本股関節学会の評議員を拝命しました平澤で
す。平成11年に東京医科歯科大学を卒業し、同学医局
で松原正明先生、神野哲也先生の薫陶を受けて育ちまし
た。現在は現病院で股関節手術に明け暮れるとともに、
JOA、JCOA、JSRAの社会保険委員として我々の声を
国に届けるべく微力ながら頑張らせていただきます。この
度は日本股関節学会でも社会保険委員を拝命しました。
自分の専門分野である股関節治療の発展のため、不
惜身命頑張ります。どうぞよろしくお願ひいたします。

馬渡 太郎 (まわたり たろう)

- 1 国家公務員共済組合連合会浜の
町病院診療部 次長
- 2 股関節外科、膝関節外科、
骨粗鬆症、関節リウマチ
- 3 伝統ある日本股関節学会
の評議員に選出いただき、
大変光栄に存じます。本学
会のさらなる発展に貢献で
きるよう精進いたします。
どうぞよろしくお願ひ申し
上げます。

入会案内

日本股関節学会
ニュースレター

■ 会員の資格

正会員	医師
準会員	医師以外（理学療法士 作業療法士 診療放射線技師 看護師など）
賛助会員	本学会の事業を援助する個人・団体
臨時会員	医師以外（学術集会におけるリハビリテーション・看護部門の共同演者および Hip Joint Suppl. における論文共著者）

■ 会費

正会員	医師 10,000 円
準会員	医師以外 5,000 円
賛助会員	本学会の事業を援助する個人・団体 50,000 円
臨時会員	医師以外（学術集会におけるリハビリテーション・看護部門の共同演者および Hip Joint Suppl. における論文共著者） 入会当該年度 のみの登録 5,000 円

入会手続き

ご入会を希望される方は、ホームページよりオンラインによる入会申し込み、もしくは申込書をダウンロードし、所要箇所をご記入の上、FAX もしくは郵送にてお申し込みください。

1. オンラインによる登録

学会ホームページ「入会のご案内」より所要事項を入力の上、入力内容を確認画面で確認してから送信してください。
登録フォームに入力されたメールアドレスに登録受付メールが届きますので、メール本文に記載されている年会費を指定口座にお振り込みください。クレジットカードでのお支払いもできます。

2. 入会申込書の記入について

- 入会申込書はすべてデータベースに登録しますので楷書ではっきり記入してください。
- 所属機関の名称は原則として、大学の場合には学部・学科まで、会社等の場合には部・課までを記入してください。
- 連絡先は会費請求書等の送付先になりますので、所属機関、自宅住所のうち、該当するものを選択してください。
- 準会員での入会の場合は、可能な限り正会員 1 名の推薦をお願いしております。
- 推薦者がいる場合は、所定欄に推薦者名をご記入ください。
- 臨時会員の入会は、当該年度のみの登録となります。
例：第51回学術集会（リハビリテーション・看護部門）で共同演者として登録した場合、当該年度（2024年度：2024年9月1日～2025年8月31日）のみの登録となります。

- 本会の会計年度は、9月1日～翌年8月31日です。
- 記載された個人情報は本学会の運営業務のみに使用します。

3. 会費の送金方法について

入会申込書をご返送していただいてから、1ヵ月以内に会費請求書（払込用紙）を発行いたしますので、最寄りの郵便局よりお振り込みください。

4. 入会申込書

正会員・準会員・臨時会員 ▶ HPよりPDFダウンロード
賛助会員 ▶ HPよりPDFダウンロード

5. 年会費自動振込の申込について

自動振込をご希望の方は、以下の用紙をダウンロードしてください。所要事項をご記入いただくとともに金融機関届出印を押印の上、下記申込先まで郵送してください。
※入会初年度は、年会費請求書（払込用紙）にて送金手続きをお願いいたします。自動振込の取扱いは次年度からの適用となります。
※届出印相違により、自動振込申請ができない場合がありますので、預金口座に使用している届出印をご確認ください。
自動振込用紙 ▶ HPよりダウンロード

申込先：日本股関節学会 会員係

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル
（株）毎日学術フォーラム内
TEL ▶ 03-6267-4550 FAX ▶ 03-6267-4555
E-Mail ▶ jhs@mynavi.jp URL ▶ <http://hip-society.jp/>

編集後記

この度、日本股関節学会ニュースレター第10号を発刊する運びとなりました。新型コロナウイルスの流行により、この数年間我々の活動も様々な制約を受けてまいりましたが、流行の収束とともに最近では以前とほぼ同様の活気を取り戻しつつあると実感しております。

昨年の10月には中島康晴会長のもと第50回日本股関節学術集会在福岡で開催されました。第50回記念大会ということで「50年記念式典」が開催され、歴史を振り返り、そして未来を見据えたテーマを多数ご企画いただき活発な議論がなされました。本年10月には三谷茂会長のもと第51回学術集会在岡山にて開催されます。すべての世代に対する股関節学を整理する目的で「Hip Disorder Reborn, again from cradle to centenarian」のテーマで準備を進めていただいております。今年も多くの会員の皆様が積極的に参加されることを期待しております。

今年も栄誉ある大正 Award 受賞者の先生方から喜びの声を寄せていただいております。第34回大正 Award の受賞おめでとうございます。今後益々のご活躍を祈念いたします。

昨年からは海外研修制度が再開され、今回は3名(米国:2名、スイス:1名)の先生方が海外研修を終えられ、帰朝報告をしていただきました。また、第3回日本股関節学会骨切りセミナー、第5回教育研修セミナー(アドバンスコース)、第2回FAI 関節唇カダバーセミナーが開催され、それぞれ兼氏歩先生、上島圭一郎先生・加谷光規先生、金治有彦先生から開催報告をいただきました。

さらに、高平尚伸先生からは社会保険委員会の活動報告をしていただいております。令和6年度の医療報酬改定への要望に対する結果、次回の令和8年度改定に向けての取り組みをご紹介いただきました。最後に中島康晴先生から変形性股関節診療ガイドライン 第3版の出版報告をいただきました。私も第3版ガイドラインを拝読させていただき、第2版よりさらに充実した内容になっていると感じております。策定委員の先生方のご苦勞に改めて敬意を表したいと思います。

今後も会員の皆様に有用な情報をお伝えし、さらに皆様からのご意見を反映できるようなニュースレターの作成に努めてまいりたいと思います。様々なご意見やご要望などをお寄せいただければ幸いです。

日本股関節学会ニュースレター第10号 2024年9月号

日本股関節学会ロゴができました！

創立50周年を記念してロゴマークを作成しました。このロゴマークは、学会の専門性と信頼性を視覚的に象徴し、学会のイメージ向上と視覚的な一貫性を保つために設計されています。

ロゴデザインには、「股関節」の「骨盤の寛骨臼部分」と「大腿骨の上端部分」が視覚的に認識しやすいように配慮されています。これにより、学会の専門分野である股関節の解剖学的特徴を強調しています。

ロゴマークの利用に関しては、事務局までお問い合わせください。



一般社団法人
日本股関節学会
The Japanese Hip Society



発行元・お問い合わせ先

一般社団法人日本股関節学会事務局

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル
(株) 毎日学術フォーラム内

TEL : 03-6267-4550 FAX : 03-6267-4555

E-Mail : jhs@mynavi.jp URL : <http://hip-society.jp>